

宿泊研修旅行

編集部 田中啓之(都立山高)

1 はじめに

都数研では恒例の行事として、毎年 1 月(または 2 月)の休日を利用して研修旅行を企画している。この企画は毎年初任者を始めとする幅広い層が集まり、研究協議や懇親会など貴重な意見交換の場となっている。

今年度は 2 月 1 日～2 日の 1 泊 2 日で館山方面に行き、14 名の参加があった。所属は高校だけでなく、中学校・大学・研究所など様々な形で数学教育に携わっている方たちが集まり、研究協議は非常に有意義な時間であった。

1 日目の夕刻、竹村先生(都立日本橋高・校長)、長津先生(都立杉並高・校長)の両先生が定年退官を迎えられることを祝して、参加者全員で書いた色紙を贈呈した。

2 行程の概要

2 月 1 日(1 日目)

- ① 東京駅八重洲口に集合 → 館山駅到着後、昼食
- ② いちご園にてイチゴ狩り
- ③ 宿舎にて研究協議
- ④ 夕食
- ⑤ 懇親会

2 月 2 日(2 日目)

- ① 朝食
- ② 宿舎にて研究協議
- ③ 記念撮影後、昼食
- ④ 館山 → 東京到着後、解散

3 研究発表の要旨

研究協議では、6 名の先生方から発表が行われた。発表の中から 4 本を紹介する。

(1) 目で見て『楽しい』幾何の問題

田中祥子(筑波大学附属駒場中・高)

数学の教材の中で目で見て『楽しい』幾何の問題の紹介。教材の良さや証明の面白さを授業で扱った様子の報告。

(2) 黄金比と 2 次方程式

宇佐美俊哉(都保谷高)

2010 年 6 月、芸術高で実践した授業のビデオ上映。タブレット PC・書画カメラ・プロジェクタなどの ICT 機器活用例発表

(3) 授業の残り時間 coffee break

飯塚京子(都農芸高)

授業時間がほんの少し余って、次の単元や問題を解くには時間が足りないときに活用した『問題』とそのときの生徒の様子などの報告。

(4) 数学の目指す方向 ー単純化とはー

長津美明(都立杉並高・校長)

数学の目指す方向としての“単純化”の重要性について改めてふれ、問題の単純化により本質的部分を理解することが大切。問題の類似性や他の単元との関係把握、知識を全体としてまとまった形で使えるようにしたいという提言。

編集部より

編集部長 萩原 聡(都立昭和・校長)

1 研究集録 50 号について

研究集録第 50 号特別企画号を無事に発行しました。3 月 8 日(土)に都立川高で発送作業を行いました。会員の皆様には 3 月中旬にはお手元に届くと思います。

もし、会員でお手元に届いていないときには、編集部(肥田・立川高 hensyu-b@tosuiken.jp)までお問い合わせください。

2 編集部主催の勉強会について

大雪にも関わらず、2 月 8 日(土)13 時より、都立川高の視聴覚教室で実施し、参加者 30 名でした。

研究発表者は、次の 3 名でした。

①数学の教材・指導法についての考察

坂井田博史(都立村山高)

②3 年次研修を通して学んだこと～エンカレッジスクールの現状を踏まえて～

大平剛弘(都立留台高)

③定時制の授業を通して学んだこと～定時制のこれから～

肥田成悦(都立川高)

発表後の講師は、東京都教職員研修センター研修部授業力向上課教授の佐藤公作先生でした。「よい数学教師・よい授業を目指して」というテーマで多くの資料を提供していただき、次の 4 点についてお話を聞くことができました。

○教師としての基本

○ワークショップ手法の取り入れ方(体験型研修会)

○授業改善の一般的な流れ

○研修テーマの立て方

・勉強会当日の資料や発表内容について、後日、冊子を作成することを計画しています。

事務局より

宇佐美俊哉(都保谷高)

(1) H25 年度の会員について(3 月 1 日現在)

正会員(個人)97 名

正会員(学校)3 校 28 名

賛助会員(個人)16 名

賛助会員(団体)1 団体

次年度も引き続き、お願いいたします。

(2) H26 年度会費納入のお知らせ

申込方法

*正会員・賛助会員(事前に承認を得ている方)は、別紙の申込書(都数研 WEB に掲載)でお申込みいただけます。

*賛助会員の新規入会の場合は、事務局へご連絡ください。

振込先

銀行 三菱東京 UFJ 銀行 渋谷支店

(店番 135 普通口座 0128396)

名 義 トキョウトコトカゴッコウ シカクキョウイクケンキュウカイ

東京都高等学校 数学教育研究会

ショムブ カゴツヨシキ

庶務部 長津美明